

廿日市市地域公共交通網形成計画のパブリックコメントにおける意見と対応等

実施期間：平成 28 年 2 月 3 日（水）～平成 28 年 2 月 22 日（月）

公表場所：廿日市市役所都市計画課及び行政情報資料室、各支所地域づくりグループ、廿日市市ホームページ

意見提出：3 件（うち計画内容に関するもの 2 件）

該当箇所及び項目	意見内容	対応・市の考え方
<p>広電バス原・川末線の再構築について</p>	<p>広島電鉄が運行する原・川末線について、JR廿日市駅北口が廿日市市役所前駅より近く、JRに直に乗り入れとなると、利用者も増えると思います。広島電鉄との協議も必要ですが、市も協力して運行すればさらにいいと考えています。</p> <p>廿日市市役所方面の利用者の事も考えると、廿日市市役所前駅までと（現在のルートは市が運行）、広島電鉄によるJR廿日市駅北口までの運行に分ければ良いと思います。その場合のダイヤ等は、現在の本数とは別で市が廿日市市役所前駅まで運行するか、時間帯によって行先を変えてみるのも方法だと思います。</p> <p>市が運行する場合の運転士をどうするかについては、交通事業者へ委託する手法もあると思います。利用者が少ない日中の時間帯は委託する業者へ、ラッシュ時の運行は、従来通り広島電鉄と分ければ少しでも経費削減が出来ると思われれます。そうなった場合は運賃については慎重に判断すべきです。</p> <p>広電が運行する便も、区間別運賃ではなく、廿日市さくらバスみたいに均一運賃。となると、今の運賃が160円～310円なので、200円～250円。そして日祝ダイヤの復活が最大の課題だと思います。平日は広島電鉄、休日は市が別の業者に委託して運行することも方法だと思われれます。</p>	<p>最終案72ページ以降に記載している実施事業の一つであり、詳細な見直しの内容は、平成28年度に策定する「廿日市市地域公共交通再編実施計画」の作成段階において、地域や交通事業者等と連携を図りながら検討することとしています。</p> <p>いただいたご意見を参考とし、機能強化された交通結節点への接続のほか、対象となる地域の移動ニーズや他の交通機関との連携を踏まえたうえで、効果的・効率的な生活交通の確保に努めます。</p>

該当箇所 及び項目	意見内容	対応・市の考え方
政策全般に ついて	<p>公共交通は、単体で結果を求めることは困難であり、まちづくりや健康などとトータルして考えることが必要だと思います。</p> <p>自宅に引きこもりがちな高齢者を公共交通への優遇施策で外出するよう誘導し、出掛けた先での飲食や買い物などの経済活動とともに、出掛ける頻度が増え歩くようになり、結果的に医療費が減少したとの富山の例もあります。</p> <p>運賃箱に入るお金や運行コストだけに目を取られることなく、地域の経済や健康など、見た目公共交通には直結していないような部分もしっかりとトータルで考えて、良い施策を継続していただきますようお願いいたします。</p>	<p>最終案 1 ページの計画策定の目的の一つに、「公共交通は、暮らしやすいまちをつくり、生活の質を向上させるための手段のひとつであり、まちづくり、健康・福祉、観光振興等、様々な分野と密接な関係を有している。」と記述しているとおり、今後、ご指摘いただいた幅広い視点での取組を進めていきたいと考えています。</p>
今後の環境 の変化や技術革新等 について	<p>近い将来、既存の公共交通の概念を超えた個別公共交通の時代がやってきます。</p> <p>例えば、海外ではすでに市民権を得ている「UBER」や「Lyft」などもいずれは日本に浸透してくるでしょうし、Google や Apple などの巨大 IT 企業が莫大な費用をかけて開発・実験を行っている自動運転自動車。日本国内でも過疎地域やタクシーの少ない地域の運転できない人々への移動手段として、大学とメーカーが自治体と共同で導入を目指しているところがあるそうです。</p> <p>そういった先端の動向も広い視野で、まちづくりに結びつく公共交通として組み入れるような、今後の施策にも期待をしております。</p>	<p>「UBER」や「Lyft」といったライドシェアの仕組みや、自動運転に関する技術革新は、場合によっては公共交通を取り巻く環境を一変させることにもなるため、引き続き動向を注視します。</p>